

生涯発達心理学

[講義] 第1学年 後期 必修 2単位

《担当者名》○小林健史 kobaken@hoku-i-ryo-u.ac.jp
橋本竜作 辻村礼央奈

【概要】

発達とは成熟と学習との相互作用の中で進む過程であり、生涯発達心理学は受精から誕生、そして人生を閉じる瞬間までのその法則を見いだそうとする学問である。本講義では、主に新生児期・乳幼児期、幼児期・児童期、青年期、成人期・老年期の発達の特徴、発達の理念について学び、言語聴覚士に必要な知見を深める。この科目は第2学年の「言語発達学」、「言語発達障害学」、「人間発達学特論」につながる科目である。

【学修目標】

[一般目標]

各発達期における障害を持つ人々の背景を理解するために、新生児期から老年期に至るまでの定型発達のプロセスを知る。

[行動目標]

各種発達理論を説明できる。

各発達期の様相について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	発達の規定要因について学ぶ。	小林健史
2 3 4	発達理論	[発達理論] ・ピアジェ、フロイト、エリソン、ヴィゴツキーなどの理論について学ぶ。	辻村礼央奈
5 6 7 8 9 10 11	新生児期・乳児期の発達 幼児期の発達 児童期の発達	[新生児期・乳児期] ・知覚・認知について学ぶ。 ・馴化・脱馴化、選好注視法などの発達研究法について学ぶ。 ・運動の発達、愛着の発達について学ぶ。 [幼児期・児童期の発達] ・遊びと社会性の発達について学ぶ。 ・認知機能の発達について学ぶ。 ・自己・他者認知の発達について学ぶ。 ・保育・学校教育と発達について学ぶ。	小林健史
12 13 14	青年期・成人期の発達	[青年期・成人前期] ・親子関係・友人関係、自我同一性、職業生活について学ぶ。 [成人期後期・老年期] ・家族生活、加齢、知的機能の発達、死への対応について学ぶ。	橋本竜作
15	まとめ	まとめのテストと解説を通じて、学習内容の定着を図る。	小林健史 辻村礼央奈 橋本竜作

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

まとめのテスト20% 定期試験（筆記試験）80%

【教科書】

山田弘幸（編） 最新言語聴覚学講座 心理学 [心の働き]（2026年）

【参考書】

渡辺弥生 監修 よくわかる発達心理学 完全カラー図解 ナツメ社 2021年

【備考】

各教員の担当する単元の終わりの回に、manabaやGoogleclassroomを用いて小テストを実施し知識の定着を図る。
小テストやまとめのテストで多かった誤りについては講義内で解説する。
試験実施後、問い合わせがあった際には、解答の要点を掲示する。

【学修の準備】

予習は教科書の関連する章を読む(80分)。
復習は講義終了後に資料を精読し、専門用語の意味を中心に理解する(20分)。
専門用語や理論に関して、自身のことばで説明できるように教科書・参考書を参照してまとめる(60分)。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

(DP2) 言語聴覚療法に必要な基礎的専門知識と技術を修得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。

【実務経験】

小林健史、(言語聴覚士)、辻村礼央奈(言語聴覚士)、橋本竜作(公認心理師)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関や児童福祉施設での実務経験を活かし、専門職業人として必要とされる言語発達障害及び関連する障害の特性について学ぶ上で、土台となる知識を講義する。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している